

サポートルーム通信

五中担当 サポートルーム教員

高橋和希/田口文貴/佐々木浩人/吉田菜那子

他校担当 サポートルーム教員

横山泰子/須志田智章/金山千里

専門員 高野滋

サポートルームのICT教育

学校のICT教育の一環として全校生徒にタブレットが昨年度より行き届くようになり、サポートルームの授業でも活用しています。その機能を生かした活用、生徒一人一人の特性に合った活用を進め、よりよい授業が展開していけるように努めています。

1 タブレットの活用状況

- ・バブルチャレンジ
- ・スライド作り
- ・生活チェックシート
- ・連絡帳の感想記入
- ・進路関係の文書作成
- ・言葉探し (ビジョントレーニング)
- ・ディベート
- ・提出物チェックシート
- ・調べ学習

など



言葉探し(ビジョントレーニング)

言葉さがし



～マス目にあんなに隠された10つの言葉を探そう～

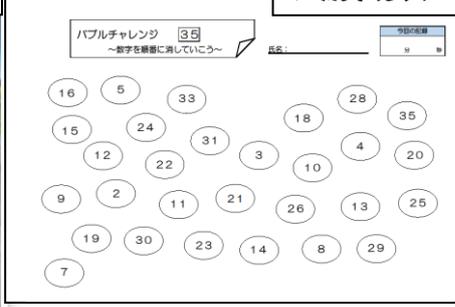
| | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ヒ | ブ | ラ | ツ | ク | マ | リ | ア | ト | ブ |
| フ | ク | ン | ム | チ | フ | コ | レ | ア | ジ |
| ツ | イ | キ | ン | グ | ス | ー | ロ | キ | ク |
| ド | ー | イ | ウ | ベ | サ | サ | キ | ホ | シ |
| うる | テ | イ | ー | ペ | ジ | ヤ | ツ | ク | |
| カ | キ | カ | ン | ジ | ー | ク | ジ | ド | ワ |
| フ | ラ | イ | ン | ワ | ン | ピ | ボ | レ | サ |
| ジ | ー | ド | ン | プ | ク | イ | ー | ン | |
| フ | ー | ウ | エ | ル | ル | ン | サ | ク | ア |
| オ | イ | フ | ー | ズ | フ | ー | ン | グ | イ |

①カイドウ ②キング ③クイーン ④ジャック ⑤うるティ
⑥ページワン ⑦フーズファー ⑧ブラックマリア ⑨ササキ ⑩ドレーク

スライド作りの例



バブルチャレンジ



上記のような授業内容で活用しています。頻度は生徒により、毎時間、あるいはその日の授業内容により使い分けたり、タブレットが得意・不得意で頻度を変えたりしています。抵抗感を減らし慣れさせるために頻度を考えて使っている生徒もいます。また、生徒の扱いやすさ（日頃、学級で使い慣れているアプリを使う、見やすい視覚情報（文字の大きさ、フォント、暗転等のコントラストなど））も配慮して使用しています。



11月16日(水) サポートルーム保護者説明会

サポートルーム保護者説明会を下記のとおり開催します。市内中学校に入学予定の小学校6年生児童の保護者が主な対象ですが、サポートルームに関心をもつ中学生保護者なども出席できます。ご希望の方は前日までに事前連絡(042-492-6315 五中)の上、当日、会場へ直接お越しください。

- 1 日時 11月16日(水) 15:30～16:10
- 2 会場 清瀬第五中学校 体育館
- 3 内容 指導の概要 / 入室までの手順 / 質疑応答 など

裏面に続きます

2 タブレットを活用するメリット

- ・書字に課題のある生徒（苦手、抵抗感等）の負担が減ることと意欲の向上が見られます。
- ・手書きよりも早く、生徒の頭の中で活字が置き換わるため、集中する時間が長くなります。
- ・言葉だけの説明ではなく、画像を見せることで具体的に生徒がイメージしやすくなります。
- ・興味・関心が高まります。
- ・手書きのときよりも自分の考えや気持ちなどの表現力が向上し、長文の作成や修正も容易になります。
- ・タブレット版の完成品で達成感を味わうことで、手書き練習への移行がスムーズになります。
- ・小集団活動での生徒同士の情報共有が円滑にできます。
- ・調べる時間が短縮され、授業内容が充実します。



3 タブレットを活用することでの生徒の意識や態度の変化

- ・タブレットでの文書作成を行うことで、学級での作文にも前向きに取り組む変化が見られました。
- ・得意な方法で自信をつけることで苦手分野にも向き合う意欲が高まりました。
- ・手書きが苦手でもタイピングが得意で積極的に取り組むと、生徒本人の自信や意欲の向上が見られるようになりました。
- ・タブレットの使用そのもので、前向きに取り組んだり意欲が高まったりする生徒が多いです。

4 今後取り組むべきこと

- ・タブレットの操作が苦手な生徒への配慮（タブレット使用の頻度や扱い方など）をしていくこと。
- ・授業内容と関係のない使用の増加、情報過多による注意散漫が懸念材料であり、これらを防ぐやり方を工夫していくこと。
- ・今はタブレットを使うこと自体に真新しさと楽しさを感じている現状ですが、その後の動機付けや関心の維持が課題。
- ・一人一人の生徒の特性に適した、タブレットを活用した独自教材の開発・研究。



今後ますますタブレットを活用することが求められてきます。サポートルームに通室する生徒一人一人の課題克服に向けて有効なものとなるよう、使用方法の工夫と改善を、サポートルーム全体でこれからも進めていきたいと思ひます。